

令和三年度

国語 (A1)

試験時間五十分

注意

1. 解答について
解答は、別に配布したマークシートと、問題用紙にはさんである解答用紙を使います。
○マークシートについて
- (1) 係の先生の指示に従って、マークシートの所定の欄に受験番号、氏名、科目を書き、受験番号のマークをぬりつぶしなさい。
・文字やマークは決してワクからはみ出さないようにすること。
- マークの仕方
良い……●
悪い……●●●●●●●●●●
- ・訂正のときは、プラスチック消しゴムでいねいに消しなさい。
(2) 答えは、すべて各設問の後の()内に指定した解答番号に従って、その番号の列にマークしなさい。
(3) マークシートは、曲げたり、折ったり、汚したりしないようにしなさい。特に、裏面には絶対に記入しないこと。
- 解答用紙について
- (1) 問題用紙から解答用紙を取り出し、所定の欄に受験番号、氏名を書きなさい。
(2) 答えは、すべて所定の欄に書きなさい。
(3) 書き抜きや記述の問題は、特に指示がなければ、句読点や記号を文字数に含みます。
2. 問題用紙について
- (1) 問題用紙表紙の所定の欄に受験番号、氏名を書きなさい。
(2) 印刷のはっきりしないところ等があれば、手をあげて係の先生に聞きなさい。

受験番号	氏名	フリガナ
●	●	

1 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

経済は英語で economy (エコノミー) といいますね。「エコ」は、エコロジのエコと同じで生活する場所を、「ノミー」はギリシャ語のノモス之源とする言葉で、法を意味します。

どんな生活圏でも資源は限られています。これをどのように分かちあえば共同体がより安全で快適になるか。そのルールがエコノミーで、日本語では、中国語の経世と済民という言葉をもとに「経済」と言われます。済民とは貧困の中にいる民を救うこと、経世は、世の中を整えることです。

(A)、この経済という言葉は誤解されっぱなしで、現代では経済成長、経済効率など、物質的な豊かさを増すことのように受け取られています。経済学の祖 ^ア アダム・スミスの「国富論」(1776年) が偏った解釈をされてきたことも誤解に輪をかけました。



みなさん、聞いたことがあるでしょう。富を分かちあう気のない人が、利己的に活動をして、その方がかえって全体の富を増大させる、それがスミスのいう「見えざる手」^{*} だ。

これも、ある意味、誤解です。スミスは最初の著作「道徳感情論」(1759年) で、人が野放図に富の獲得を目指せば社会の秩序は乱れると論じます。(B)、¹ 富への欲望だけでなく、人間にあるもう一つの本性を使おう、その能力を使えば富を得ながらも富に囚われず、心の平静を保つことができる、と書いています。

それが「共感」、シンパシーです。誰でも人が泣いていたら悲しいし、喜んでいたら一緒に笑いたくなる。こうした共感は、損得勘定^{かんとう}とは別の能力で、人間に自然と備わっている。家族だったら自分だけ食べて、他の人に食べさせないことはしません。当然、分けあいます。他人でも目の前に飢えている人がいれば、自分が相手の立場だったらどんな気持ちになるか想像し、利他的な行動をすることもある。こうした共感によって自分の行動を制御することができれば、それぞれが自由な経済活動をして、おのずから最低限の富が全体に行き渡る——これが「見えざる手」によってスミスがイメージしていたことだった、と私は考えています。

スミスが、自分や自国だけが儲かればよい、と考えていなかったことは、彼が ^{*} 重商主義と呼ばれる当時の保護貿易政策を徹底批判していたことから明らかです。「交換」を重視したスミスは言語も文化も違う外国を、友好を取り結ぶべき交換相手と考え、資源を奪い合う敵とは考えていませんでした。「交換」とは、「私が必要とするものをください、かわりにあなたが必要とするものをあげます」というもので、双方の共感にもとづく行為と考えたのです。(C)、植民地をめぐって争い、多くの命と莫大な資源を軍事に費やす英仏間の戦争は、「政府による浪費」であり、経世にも済民にもならないと批判したのです。

(D)、なぜ、スミスは誤解されたのでしょうか。それは蒸気機関の時代に生きたスミスの予想をはるかに超えたスピードと規模で科学技術が発達し、富と人口が爆発的に増え、物が豊かになり、消費が増えれば幸せになるという世界観が誕生したことにあります。

富や地位への野心は、勤勉、創意工夫などを通じて繁栄に貢献しました。一方で、物の豊かさに目を奪われ、日に見えない文化や習慣、伝統などは軽んじられました。そして、歯止めのかからない野心、利己心から、今や富は偏在し、少数の富裕層が世界の資産の大半を握り、貧しい人は置き去りにされています。その結果、他人を顧みない富の追求が経済だと誤解されるようになったのです。

こうした経済の学祖とされているのをスミスが知ったら、さぞかし不本意でしょう。同時に米中貿易紛争に見られるような ^{*} 保護主義的な介入を見たら、約250年前の重商主義時代となら変

わっていない、と嘆くでしょう。

今日、成長の限界がいたるところで明らかになっています。1人当たりの生活水準、消費量が増えることによって二酸化炭素の排出量の増加に伴う地球温暖化や、資源の乱獲、水不足、人口爆発、格差の拡大など、先送りできない問題が、目の前に山積みになっています。人口減少高齢化にさらされる日本では、家庭や地域といった社会を支えるセーフティネットの崩壊が叫ばれています。日本を含む世界を大きな船にたとえたら、今その船底には多くの穴が開いていて、穴から水が入ってきています。なすべきことは、上層階の1等船室に逃げ込むのではなく、船底に行つて穴をふさぐことです。



細分化され、内向きになった学問のままでは、現代の諸課題には対応できません。穴をふさぐために大事なことは、エコノミーの原点に立ち返り、様々な問題を、分かちあいの精神で考えることです。大阪大が一昨年つくった^{*}社会ソリューションイニシアティブは、学問間の連携をとり、また社会の現場とも協働して解決策を見つけようという試みです。

このような問題意識に至ったきっかけは、「アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の世界」(中公新書)で2008年にサントリー学芸賞を受けた直後の講演でした。その頃の日本は^{*}リーマン・ショック後の不況下にあり、私の本は強欲資本主義に警鐘を鳴らす書として注目されました。講演の最後に、「では、今後私たちはどうやって生きていったらいいのでしょうか?」という質問が出ました。「スミスなら

Xが大切というでしょう」と答えるのが精いっぱいでした。質問した人は不満そうでした。私は、人の気持ちに応えられないことが情けなく、もっと現実に向き合わなくてはならないと思いました。

「飽食の時代」と言われ始めた1970年代、アフリカの飢餓の映像を見て、なぜ余った食糧がうまく分配できないのかと疑問を抱き、大学で経済学を学ぶことになりました。

「思想から実践へ」。これが^{*}SSIとなりました。組織名のイニシアティブ(先導)には、今よりも一歩開いた精神に立つ、とにかく一歩でも前を行くという思いを込めました。

理念は「命を大切にし、一人一人が輝くこと」です。当たり前と感じる人が多いでしょうが、当たり前ができていない、あるいは、できなくなるだろうとの危機感が原点にあります。現代科学の発達は、命を守ると同時に、命に重大な危険をもたらす可能性もあります。今、必要なのは、^工科

学技術や経済活動の目的を問う英知です。即効薬はなく、様々な試みは失敗もするでしょう。しかし、共感によるつながりを広げておけば、失敗に触発された誰かがよりよい方法を見つけ出すでしょう。この繰り返しですが、やがて社会を大きく変える。私はそう信じています。

(読売新聞 2020年1月26日 朝刊 あすへの考 堂目卓生)

※「見えざる手」……アダム・スミスが著書「国富論」中で記した文言。市場経済において社会

全体の利益となる望ましい状況が見えざる手によって達成されるとした。

※重商主義……貿易差額によって貴金属や貨幣を蓄え、国富を増大させようとした近世国家の管理経済。

※保護主義……自国の産業・雇用を守ることを優先する考え方。関税引き上げや輸入制限が代表的な手法。

※社会ソリューションイニシアティブ……大阪大学に誕生した2050年の持続可能な共生社会を構想する研究機関。

※リーマン・ショック……米大手証券会社の経営破綻を引き金とした世界的金融危機。
※SSI……社会ソリユーションイニシアティブ。

問1. 空欄（A）～（D）に入る語の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から一つ選び、番号をマークしなさい。
（解答番号は①）

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|-----|
| ① | A | しかし | B | ですから | C | そこで | D | では |
| ② | A | ですから | B | そこで | C | しかし | D | そして |
| ③ | A | そこで | B | そして | C | ですから | D | しかし |
| ④ | A | ですから | B | そこで | C | そして | D | しかし |
| ⑤ | A | しかし | B | そして | C | ですから | D | では |

問2. —線部ア「アダム・スミスの「国富論」（1776年）が偏った解釈をされてきた」理由を著者はどう考えているか。適切なものを次の選択肢から一つ選び、番号をマークしなさい。
（解答番号は②）

- ① 利己心が制御できないため。
- ② 貧困層が拡大したため。
- ③ 科学技術が発展したため。
- ④ 重商主義への批判があったため。
- ⑤ 伝統が軽視されたため。

問3. —線部イ「富への欲望」は現在どのような結果となつてあらわれているか。その説明としての次の文章を、それぞれの空欄に本文中の二字熟語を抜き出して当てはめることで完成させなさい。
〔マークシートには記入しないこと〕

・社会を（ a ）させた一方で富を（ b ）させた。

問4. —線部ウ「エコノミーの原点」とあるが、エコノミーとは本来どのような意味を持った語であるか。本文中の語句を用いて三十字前後で答えなさい。
〔マークシートには記入しないこと〕

問5. 空欄 X に入る語を本文中から漢字二字で抜き出して書きなさい。

〔マークシートには記入しないこと〕

問6. 著者は—線部エ「科学技術や経済活動の目的を問う英知」を実践し、現代の問題を解決するためにどのような活動が必要であるとしているか。本文中の語句を用いて五字から十字で二つ書きなさい。
〔マークシートには記入しないこと〕

問7. 本文の内容と一致するものを次の選択肢から一つ選び、番号をマークしなさい。

(解答番号は③)

- ① 言語や文化の異なる外国と友好な関係を保つ意思があるなら、保護貿易政策だけを推進するのではなく、双方の共感に基づく等価「交換」の考え方を併用する必要がある。
- ② 世界が抱える貧困や気象等に関する諸問題の発生は、強欲資本主義における成長神話もはや限界に達しつつあることを示している。
- ③ 近代以前の社会では、人々に分かち合いの精神が備わっていたため最低限の富が行き渡っており、現代ほどの格差は存在しなかった。
- ④ 世界の飢餓問題が解消しないのは、大国が友好を取り結ぶ交換相手としてアフリカを扱ってこなかったことが原因である。
- ⑤ 科学や経済の発展は人間に物質的幸福をもたらしたと同時に精神的苦痛を与えたが、これを解決する唯一の方法は、共感によるつながりのもとで失敗を繰り返すことである。

2

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

元海軍の軍人であった「おやじ」は戦後公職を追放される等、不遇な生活を送っている。

「僕」は妻（珠子）と子ども達とともに、同じ敷地内の別棟に両親と暮らしている。

あしたはおやじがいよいよ病院に行くという前の晩、僕は早目に仕事を切り上げて宵の口に帰って来た。行つて見ると、おやじが寝ている次の間で、妻がおふくろを手伝って古いトランクにおやじの身の回りの物を詰めているところだった。おふくろも妻も、僕を見ても「お帰り。」とも言わないので、やはり誰もが普通でない気分には押しつけられたようになっていたのが分った。兄も来ていて茶の間でほんやりテレビを見ていたが、僕には一寸合図してよこしただけだった。

おやじの寢床の上は、本人がまぶしがるので今夜も明りが消してあった。薄暗がりにおやじが浴衣の寝巻を着て軀を伸ばしているのが見えた。足許に立った僕を見上げると、おやじはきまり悪そうに笑つて見せた。

「あしたは送つて行くからね。」

僕は他のことは何も言わず、ごく事務的に、ぶつきらほうに、それだけ言つた。するとおやじは、さもつまらんことだ、余計な心配をせんでもいい、というように笑いながら答えた。

「送らんでもいいよ…。」

おやじがこの病院行きに関してすっかり従順になつているのは助かったが、それならばそれでまわりの者はつらかった。虚勢を張つていだけなのがわかるからだ。それはまるで、俺は入院なぞ承服したわけでもないのに、貴様らが行け行けと言うから行くんだ、仕様のないやつらだ、と言っているみたいだった。大病をしたことのないおやじは勿論病院生活の経験もなかった。僕にはおやじがひどく怖れているのが分った。

「珠子もきのう下見に行つて来てね、大きな、いい病院だと言つていた…。」

僕はおやじを安心させようとして、自分ではまだ見てもいない大船のその中央病院の建物を想像しながら言つた。きょうは兄が昼間おやじの病室を見せてもらつて来ているはずだ。たしかにそこはこのあたりでは大きい部類に属していたし、よく流行つてもいるという評判だった。

「あれも海軍らしいな、院長の有賀というのは。軍医長だそうだ。金子がよく知つておるらしい。」

おやじは急に海軍の身内のことを話す時の、すっかり気を許したような口調になつていた。金子というのは近くに住んでいる兵学校同期の中将だった。今度の入院も元はと言えばこの中将が持つてきた話で、おふくろとも示し合せた上、中将が何度か病院に足を運んで決めてきてくれたことだった。中将は、いい医者に恵まれたおかげであやうく一命をとりとめた他の級友の例なども引き合いに出して、おだやかにおやじに言い聞かせた。

「…どうだ伊能、貴様（お前）もこのさい思い切つて入院して、有賀によく診て貰つて来たほうが今後も安心じゃないか。有賀は腕もいいし、経験も豊富だし、任せてくれと言つておるんだから…。ねえ、奥さん、如何なものでしょう。」——すべてを呑み込んでいる中将はそんなふうにと事もなげに言つて、いま初めておふくろにもすすめるような顔をした。それ以来、どこへ行くのもいやだと言つて僕らを手こずらせていたおやじが、少しずつ気持を動かされてきて、とうとうこの級友の忠告を聞き入れることになった。そして、中将には、この死に場所探しが五十年來の級友への最後の贈りものになつたわけだった…。

隣の部屋では、おふくろと妻が相変らずほそほそと陰気にささやき合つては、畳の上にひろげたおやじの衣類をトランクに詰めていた。だがそれも見てみると、実際に小まめに手を動かしているのは妻のほうで、おふくろはもう今日までおやじを騙しつづけることだけで、精も根も尽きたというようにひどくボンヤリしてしまつて、ただ洗濯物の真ん中に坐っているだけだつた。

やがてそこへ兄が茶の間から立つて来た。彼はしばらく女たちの支度ぶりを眺めていたが、そのあとで近寄るともなく僕とおやじのほうへ近寄つて来た。そして、このことはおやじにはもう報告してあるという口ぶりで、僕に話しかけてきた。

「きょう見て来たよ。院長とも会つてきた。よく頼んでおいたよ。…」

兄はそれだけ言つと、また向うへ行きかけるようにして、思い直したように言いにくそうに切り出した。

「…おれ、今晚は帰るからな。あした出張で早いんだ。病院まで送つて行けないけど、まあよろしく頼みますよ。」

兄はよろしく頼むというのをわざとらしく笑いながら、いかにも屈託なげに言つたが、それはあきらかに僕に言うと思つて、半分はおやじに聞かせたのもあつた。別は大騒ぎするほどのことでもないようですから、見送りは失礼させて貰います、とでも言うように。僕は自分以上に口下手な兄が、今夜でさえそんなことしか言い残せないであきらめたように帰つて行く、もどかしい心のうちが分るように思つた。

「いいよ、いいよ、僕がついて行くから。」

すると僕らの問答を聞いていたおやじが、もう一度さつきと同じことを言つた。

「いやあ、誰も送らんでいいよ、一人で行くから。…」

あくまでも自分を元気づけるように笑い声にまぎらして言い張るのだが、そのくせおやじの笑い方は、闇の中にもぼつんと取り残されたような淋しい笑い方だつた。

そんな親子三人のやりとりを、妻は隣でじつと聞いていようだつた。そして、ときおり目を挙げて僕の顔を覗き込むようにするのだが、亭主のポーカーフェイスにぶつかると、とりつく島がないといった不服そうな面持でまたうつ向いてしまふ。まるで、今夜この家の中で病人の気も知らぬげに平気で笑つたり、つつけんどもものを言つたりしているのはあなた一人よ、と言つて注意したがっているみたいだつた。何が彼女は不満なのだろう。僕がろくにおやじを慰めるような言葉もかけてやれないでいるからか。

だが僕にしてみれば、その彼女の膝もとで口をあけているおやじの古ぼけたトランク一つにしかたつて、いまこうして目にするのはたまらなかつたのである。よりによつていまごろどうしてそんなものを持ち出すのだ、と言つてやりたかつた。だが考えてみれば、トランクのようなものすら僕らは戦後の売り食い時代にみんな手放してしまい、そんなものしか残っていないかつたのである。そのトランクはたしか戦争前におやじが自分の好きな革で誂えたものだつた。そしてそれは、おやじとおふくろと三人でした数少い僕の子供の頃の旅行の思い出に結びついてもいた。南は別府や雲仙…それからもう名前は忘れた信州や東北の鄙びた温泉場、…それから北は札幌や小樽へもそのトランクで行つた。それを見ると思ひ出すのは、行くさきさき宿屋の広い湯ぶねに首までつかつていゝ風呂好きのおやじのことだ。そしてそのおやじとさし向いにやはり湯につかっている子供の僕のことだ。それからまた、おやじがいやがる僕の頭に湯をかけて、乱暴な手つきでからだを洗つたことだ。

おやじと最後に旅行をしたのはいつだつたらう。真珠湾の奇襲攻撃があつたすぐあと、おやじはいつのまに行つたのかもマニラにいた。その間、おやじはアメリカ人から接収した瀟洒な邸宅に召し使い付きで暮して、ときどき近くの講堂でフィリピン人たちに唄れ声をはりあげて、戦意昂揚の大演説をぶつたりして暇をつぶしていたのだ。いま思うと、その頃がおやじの職業軍人とし

てのいちばん景気のいい時代だった。おやじは戦争のおかげで大佐に進級し、やがて内地に帰された。僕は鶴沼からおふくろと出迎えに行き、朝早く門司港でランチから上がって来るおやじを待っていた。おやじは埠頭のほうから大股で歩いて来た。南方の陽に真っ黒に焼けて、元氣そうだった。そうして三人並んで町の中を歩いて行った時のおふくろの仕合わせそうな顔といたらなかった。おふくろは若返ったように上ずった声をはりあげて、おやじの留守中のことをしゃべっていた。おやじは子供の僕にはやさしかった。食事のときテーブルに生牡蠣の料理が出てくると、それと同じ貝殻がお父さんの軍艦の船底にもいっぱいくっついていてるのだという話もしてくれた。たった数日間の休暇だったけれども、その時もあのトランクが僕らのお供をした…。

しかし、この思い出のトランクを提げて、おやじが明日病院へ死に行くのだというようなことは、いくら考えても仕方のないことだった。

(阿部 昭『司令の休暇』より。一部内容に手を加えてある。)

問1. — 線部ア・エ・カの語句の意味として適切なものを次の選択肢からそれぞれ一つ選び、番号をマークしなさい。

ア「虚勢を張っている」

(解答番号は④)

- ① 見栄を張る
- ② 平気なふりをする
- ③ 元気をなくす
- ④ 遠慮する
- ⑤ 空威張りする

エ「精も根も尽きた」

(解答番号は⑤)

- ① 気力が無くなる
- ② 精一杯頑張る
- ③ 罪悪感を抱く
- ④ 悲しむ
- ⑤ 気分が減入る

カ「屈託なげに」

(解答番号は⑥)

- ① とぼけた様子で
- ② 心配そうに
- ③ 悪びれずに
- ④ 何でもなさそうに
- ⑤ 事実を隠して

問2. — 線部イ「事もなげに言って、いま初めておふくろにもすすめるような顔をした」のは何のためか、書きなさい。
〔マークシートには記入しないこと〕

問3. —線部ウ「中将には、この死に場所探しが五十年来の級友への最後の贈りものになったわけだった。」の表現から読み取れることとして適切なものを次の選択肢から一つ選び、番号をマークしなさい。
(解答番号は⑦)

- ① おやじと戦地で行動を共にした中将が、おふくろと相談して、おやじに心穏やかな余生を送れるように采配したこと。
- ② 中将が、五十年以上親しくつきあってきたおやじの命を助けられず、無念さを痛感しているということ。
- ③ 余命がそれほど残されていないおやじが、遠からず大船の中央病院で死んでしまうことになるということ。
- ④ おやじが自分の余命をはっきり自覚しながらも中将の言葉を信じているふりをしていること。
- ⑤ 中将が、おやじの余生をどんな風に過ごさせたら良いのかということ、長年悩み続けていたということ。

問4. —線部オ・キについて。この発言者の感情を、「僕」はそれぞれどのように読み取っているか。適切なものを次の選択肢からそれぞれ一つ選び、番号をマークしなさい。

- オ「：おれ、今晚は帰るからな。あした出張で早いんだ。病院まで送って行けないけど、まあよろしく頼みますよ」
(解答番号は⑧)
- ① 大病の経験のないおやじから少しでも恐怖心を取り除くために、下手な芝居まで演じようと精一杯の気遣いを見せている。
 - ② 自宅で過ごすのが最後となるに違いないおやじに対し本心を語ることもできず、平静を装い、病状までごまかすような態度を取ることしかできないはがゆさを感じている。
 - ③ 我を張って、長年関係が悪かったおやじと正面から向き合うこともせず、励ましの言葉をかけるといった度量にも欠ける自分自身の器の小ささに嫌気がさしている。
 - ④ 海軍あがり、家族にずっと威張り続けていたにも関わらず、病を抱えた途端に弱々しくなってしまうたおやじにささやかな皮肉と軽蔑を覚えている。
 - ⑤ 久々に会ったおやじが想像以上に衰弱していることを目の当たりにして、そそくさと帰宅することしかできないほど激しく動揺している。

キ「いやあ、誰も送らんでいいよ。一人で行くから：」
(解答番号は⑨)

- ① 入院の付き添いを頼んだり、しぶしぶ承知したりする息子達のやりとりを聞き、ないがしろにされているような孤独感を募らせているが、それを周囲に悟られまいとしている。
- ② 経験したことの無い入院生活に対する不安を周囲に知らせてしまったら、肉体だけでなく精神も弱っていきかねないと気を引き締めている。
- ③ 他人に迷惑をかけなければ生きながらえることができないう状況、悲しみのうちに自覚しているからこそ、自暴自棄にならないように気持ちを落ち着かせている。
- ④ 人の世話になるほど深刻な病状ではないということ、周囲にも自分自身にも言い聞かせたいが、一方で入院や病氣への不安や苦悩から逃れられないでいる。
- ⑤ 困惑するほどの気遣いを家族から受け、素直に甘えることはできないが、自分の老いを痛感して内心喜ばしく思っている。

問5. — 線部ク「だが僕にしてみれば、その彼女の膝もとで口をあけているおやじの古ぼけたトランク一つにしたって、いまこうして目にするのはたまらなかつたのである」の理由を左の文章の空欄に当てはまるように、二十字から三十字で答えなさい。

〔マークシートには記入しないこと〕

・もうすぐ死んでしまうはずのおやじの入院のために用意されたトランクは
() だったから。

問6. 本文から読み取れる内容として適切なものを次の選択肢から二つを選び、番号をマークしなさい。

(解答番号は⑩)

- ① 病気で回復の見込みはないが、そのことを家族からしらされていないおやじは、明日に控えた入院の準備に余念のない妻と嫁を尻目に、息子達との会話に興じている。
- ② 元軍人であったおやじは、戦時中の羽振りの良かった頃が忘れられず、自分本位であり、家族の意見には耳を傾けない一方で、同じ海軍所属だった金子や有賀にはゆるぎない信頼を寄せている。
- ③ おそらく二度と自宅に戻ってこれないおやじの入院前夜の様子が、それぞれの登場人物の視線で語られることにより、おやじの存在感の大きさが浮き彫りになっていく。
- ④ 入院を明日に控えたおやじに、僕は表面上平素と変わらず冷静に対応しているが、その視線は注意深く他を捉えており、繊細で感傷的な一面をうかがわせる。
- ⑤ 血縁関係のない珠子は、客観的に人々や状況を把握しながら、おやじとおふくろに対して細やかな気遣いを示し、自身のつとめを着実にこなしている。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

豊前の国の住人太郎^アにふだうといふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、

出家する前、在俗の男だったとき

山をすぐるに大猿ありければ、木におひのほせて射たりけるほどに、かせぎに射てけり。すでに

木のまたにいる猿を射貫いた。今にも

木より落ちんとしけるが、何とやらん物を木のまたに置くやうにするを見れば、子猿なりけり。

木から落ちようとしたが、何だろうか、わからない物を

おのがぎずを負ひて土に落ちんとすれば、子猿を負ひたるをたすけんとして、木のまたにすゑんと

据え置こうと

しけるなり。子猿はまた、母につきてはなれじとしけり。かくたびたびすれども、なほ子猿とり

離れまい

このように

つきければ、もろともに地に落ちにけり。それよりながく猿を射る事をばとどめてけり。

〔古今著聞集〕より。〕

問1 — 線部ア「にふだう」を現代仮名遣いに直しなさい。「マークシートには記入しないこと」
問2 — 線部イ「かく」の指示内容として適切なものを次の選択肢から一つ選び、番号をマークしなさい。 (解答番号は①)

- ① 子猿を背負った母猿がこれ以上傷を負わないよう、大猿が子猿と母猿を引き離したこと。
- ② 母猿が太郎の視線を自分だけに向けようと、子猿を自分から引き離そうとしたこと。
- ③ 母猿が子猿を助けようとして自分から離しても、子猿が離れまいとすること。
- ④ 母猿が子猿と生き延びるために別々に逃げる方法を取らざるを得なかったこと。
- ⑤ 母猿と子猿が離れられないのをよいことに、太郎が子猿までをも射止めたこと。

問3 — 線部ウ「落ちにけり」の主語を文中の語を用いて答えなさい。 (マークシートには記入しないこと)

問4 — 線部エ「それよりながく猿を射る事をばとどめてけり」の理由として適切なものを次の選択肢から一つ選び、番号をマークしなさい。 (解答番号は②)

- ① 人間と変わらぬ猿の親子の情愛に胸を打たれたため。
- ② 神仏による罰がくだされることをおそれたため。
- ③ 残された子猿を育てるうちに情愛が湧いたため。
- ④ 生き物を無駄に殺し続けることは猿にも劣ると反省したため。
- ⑤ この時受けた体の傷が、なかなか癒えなかったため。

4 次の — 線部の漢字は平仮名に、カタカナは漢字に直しなさい。

(マークシートには記入しないこと)

- ① トップに躍り出る。
- ② 権威が失墜する。
- ③ 緊急ソチを講じる。
- ④ センレンされた文章。
- ⑤ 少数セイエイで戦う。

(以上で問題は終わりです。)